

OE A-J、海洋エネ実証設備設置に向け欧州民間機関と協力覚書に調印

3月9日、国内で海洋エネルギー試験場設立を目指す海洋エネルギー資源利用推進機構（OE A-J）は、欧州海洋エネルギーセンター（EMEC）と覚書を締結した。EMECは英国政府やスコットランド自治政府、欧州連合（EU）などが出資する民間研究機関で、世界最大規模の波力、潮力発電の実証設備を保有。今回の覚書に基づき、OE A-Jはその知見を活用できることになった。OE A-Jの木下健会長（東京大学教授）は、早期の設備設置を目指す方針を強調した。

（電気新聞）

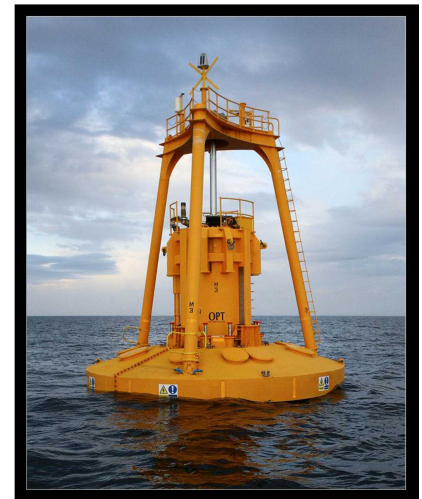


OE A-Jは2008年に設立された組織。各種海洋エネルギーの実用化を目指している。そのうち波力、潮力発電については、実証設備を13年度までに国内に設置する計画を進めている。

EMECはスコットランドのオークニーに15件の実証設備を保有、もしくは設置計画を進めている。OE A-Jは、設備が海生生物へ与える影響などの知見を得て、設置計画に活かしていく。

OE A-J関係者は「日本の海洋エネルギー利用は欧州に比べ10年ほど遅れている。今着手すれば間に合う」と話し、今回の覚書締結を機に、早期の実現を目指す考えを示した。OE A-Jは、再生可能エネルギー協議会（JCRE）の核になる活動組織である。

PB150 B1 - Scotland



deployed PowerBuoy – April 2011